

# オプト事業

## 2010年3月期の業績概要

世界景気は回復基調に入り、デジタル家電業界では生産量を増加させるなどの動きが見られました。こうした状況の中、ガラス製ハードディスク基板やTACフィルムの販売数量が増加し、事業全体の収益を牽引しました。一方で、画像入出力コンポーネント分野の販売数量の伸び悩みとともに、ブルーレイディスク用光ピックアップレンズでのプラスチック化の推進に伴う販売単価の低下などの影響を受けました。これらの結果、売上高は前期比21.1%減少の1,367億円、営業利益は主力製品の販売回復に加えて、前期末から取り組みを進めたコスト構造改革効果もあり、前期比14.8%増加の143億円となりました。

## 各分野の状況

### ディスプレイ部材分野

TACフィルムについては、各国における家電需要振興策による大型液晶テレビの需要増加により受注が回復し、上半期から収益が改善しました。当社が市場優位性を持つVA-TACや薄膜TACフィルムの販売も順調に推移しました。

### メモリー分野

ブルーレイディスク用光ピックアップレンズは、ボリュウムゾーンとなるIT系での市場の立上りが遅れていることから、当初想定していた販売数量を下回る結果となりましたが、AV系では販売数量は回復基調で推移しました。CD用、DVD用を含めた光ピックアップレンズ全体としての販売数量は前期を上回る実績を上げました。

ガラス製ハードディスク基板は、250GBや320GBなど高記録密度対応の製品の販売拡大に努めました。ノートパソコンや外付けメモリー向けを中心に需要が回復し、第3四半期頃から販売数量の増加が顕著になりました。今後の需要増に対応し、2010年10月の稼働を目指し、マレーシア工場の生産ライン増設に着手しました。

## 画像入出力分野

採算性を重視して製品領域を絞り込む中で、世界不況の影響を受け、当社が得意とするハイエンド領域での需要が総じて低調に推移したことにより、販売数量は伸び悩みました。

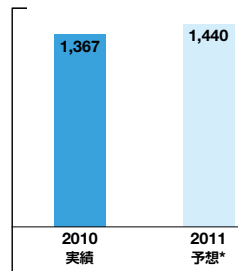
## 今後の戦略

デジタル家電分野においては、3D液晶テレビの市場投入やブルーレイディスクの本格普及、ハードディスクの高密度化など、今後の市場動向が注目されています。こうした市場の動きは、TACフィルムやブルーレイディスク用光ピックアップレンズ、ガラス製ハードディスク基板の需要増加につながり、当社の主力事業にとって追い風になると見ています。

また、ジャンルトップ戦略を引き続き推進し、各分野で強い成長を維持するとともに、光学技術の強みを活用して、照明・車載・エネルギー・ライフケアなどの新分野へ応用することで事業領域拡大を実現し、力強く成長していきます。

### 売上高

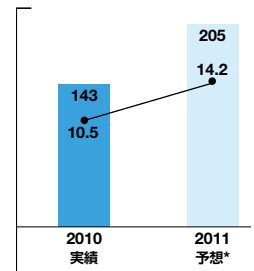
(億円)



\*予想：2010年5月13日公表

### 営業利益 / 営業利益率

(億円 / %)



■ 営業利益  
— 営業利益率



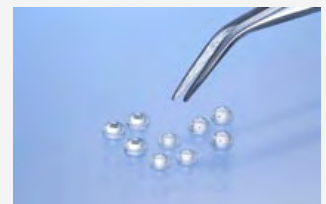
ガラス製ハードディスク基板



TACフィルム



携帯電話用マイクロカメラユニット



ブルーレイディスク用光ピックアップレンズ